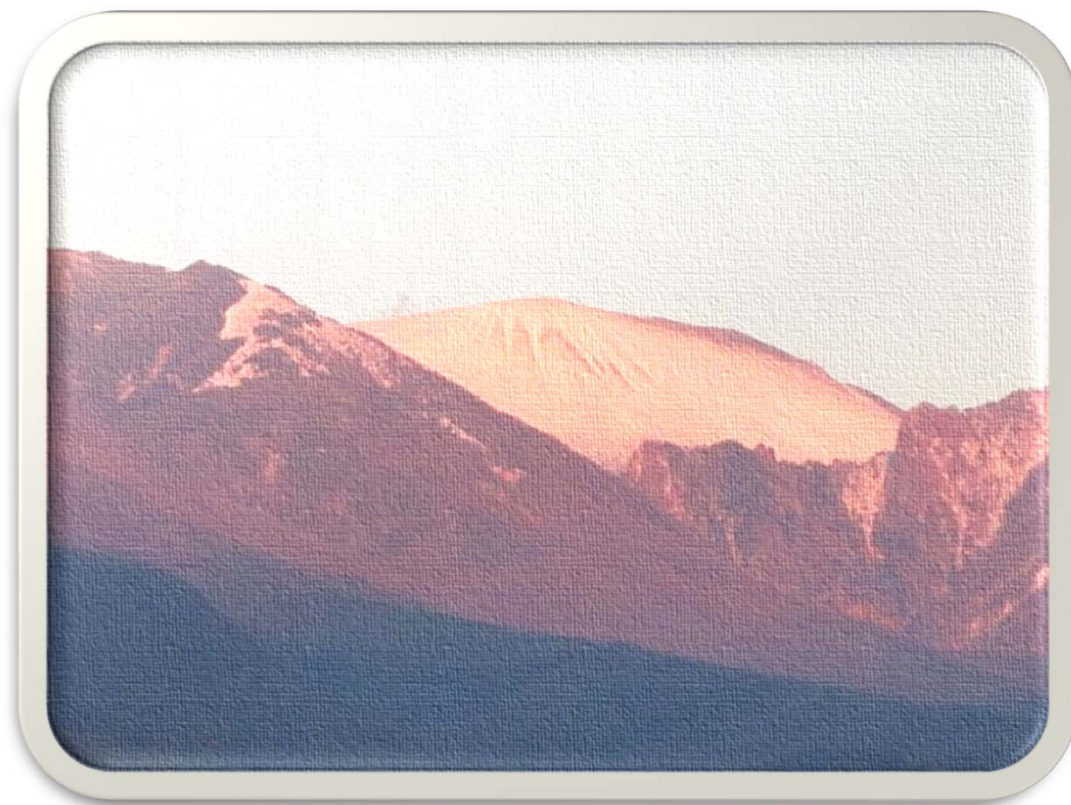


令和7年度 環境経営レポート

 **笠原工業 株式会社**



対象期間 令和7年 1月1日 ~ 12月31日

発行日 令和8年 2月28日



 **笠原工業 株式会社**

目 次

1. 組織の概要	……2ページ
2. 対象範囲	……4ページ
3. 環境経営方針	……5ページ
4. SDGs 達成に向けた取り組み	……6ページ
5. 環境経営目標	……7ページ
6. 環境経営活動計画	……8ページ
7. 環境経営活動計画の取組結果とその評価	
並びに次年度への取り組み内容	……11ページ
* マテリアルバランス	……14ページ
* 各部の環境経営目標の実績	……15ページ
8. 環境法規等の遵守状況の確認及び評価の結果	
並びに違反、訴訟等の有無	……20ページ
9. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果	……22ページ

1. 組織の概要

1-1. 事業所名・代表者名及び所在地、事業の概要

- ・ **笠原工業株式会社** 長野県上田市常田1丁目10番3号
創業 明治11年 設立 平成19年1月 資本金 5000万円
代表取締役社長 笠原 章嗣

URL: www.kasahara.co.jp/kasahara/

【管理部門】 常務取締役 小出
総務課長 近藤

【合成部】 合成部長 後藤
* 発泡スチロール製造販売 5.3億円（令和7年度）

【精密加工部】 精密加工部長 小林
* ガラス素材切断・研磨 2.2億円（令和7年度）

【AB部】 AB統括取締役 両角
* 農業関連資材販売 2億円（令和7年度）

- ・ **笠原工業株式会社 御牧事業所** 長野県東御市羽毛山519-33
【電子部】 電子部長 宮下
* 電子部品組立 17.1億円（令和7年度）

電子部 甲府営業所
担当 小林
山梨県南アルプス市在家塚1288-2

- ・ **笠原工業株式会社 再生可能エネルギー利用施設**
 - * 八重原発電所（太陽光）
長野県東御市八重原字泥ヶ沢1742-1 規模：408kw/h
 - * 常田発電所（太陽光）
長野県上田市常田1丁目10番3号 ①規模：47kw/h
②規模：66kw/h

1-2. 事業規模

受注額 : 26.5億円 (令和7年度)
従業員 : 認証対象 92名
延床面積 : 本社 12,548 m²
御牧事業所 4,338 m²
甲府営業所 614 m²

1-3. 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 精密加工部部長 小林
担当者 : ea21事務局 瀧澤、山崎

連絡先

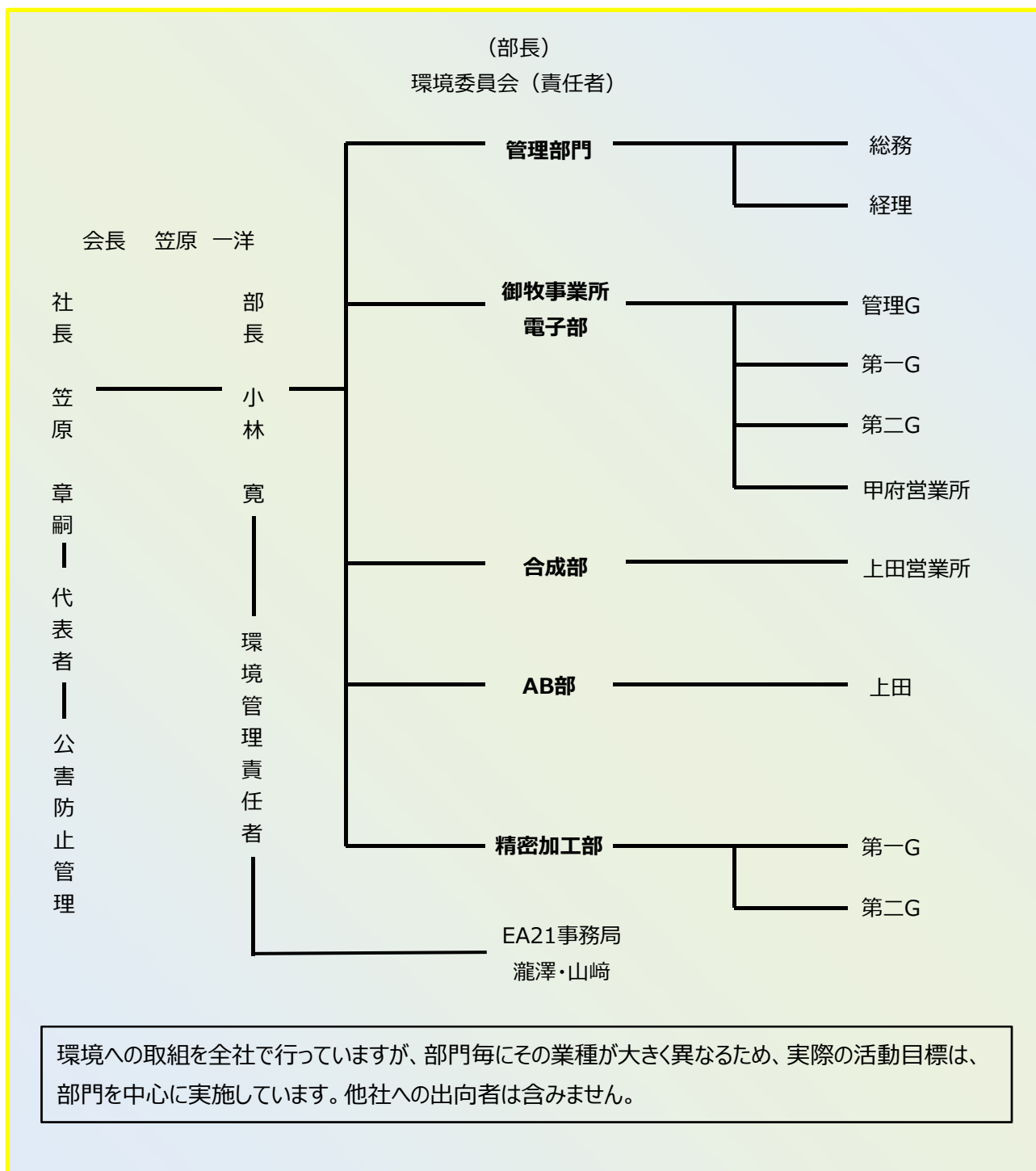
TEL : 0268-22-1230
FAX : 0268-25-1594



2. 対象範囲

2-1. 認証・登録範囲

笠原工業株式会社 環境経営活動組織 2026年度



2-2. レポートの対象期間及び発効日

対象期間 令和7年 1月1日 ~ 12月31日
発行日 令和8年 2月28日

3. 環境経営方針

環境経営方針

【基本理念】

「地域社会と自然環境の保護」

笠原工業株式会社は、自然環境に恵まれた信州上田の地に百十余年にわたり、企業活動を続けてまいりました。

文化庁より重要文化財として当社の「旧常田館製糸場施設7棟」が指定されており、文化財の保存・活用を図り、次世代に継承します。

また、長野県SDGs推進企業として、持続可能な社会づくりのため、意欲的に取り組みます。

引き続きこれからも、地域の皆様を初め、大勢の皆様に愛されるよう積極的な環境活動を行って参りたいと思います。

【環境経営方針】

1. 当社の経営活動により生じる環境への課題をしっかりと把握し、SDGsで定めた目標と連携して継続的改善及び環境汚染防止に挑戦します。
2. 当社は環境に関する法律及び条例や協定、当社が合意した事項を遵守します。その他環境に関する要請に対応します。
3. 当社の事業活動により生じる環境負荷を低減するよう、部署毎に事業内容に合った環境負荷の低減目標を設定し実行します。
4. 当社は生物多様性損失などの深刻な課題に対応するため、環境保全活動に取り組みます。
5. 当社の環境経営方針は、全社員に周知徹底し社外へ公開します。

制定日 2005年 08月20日

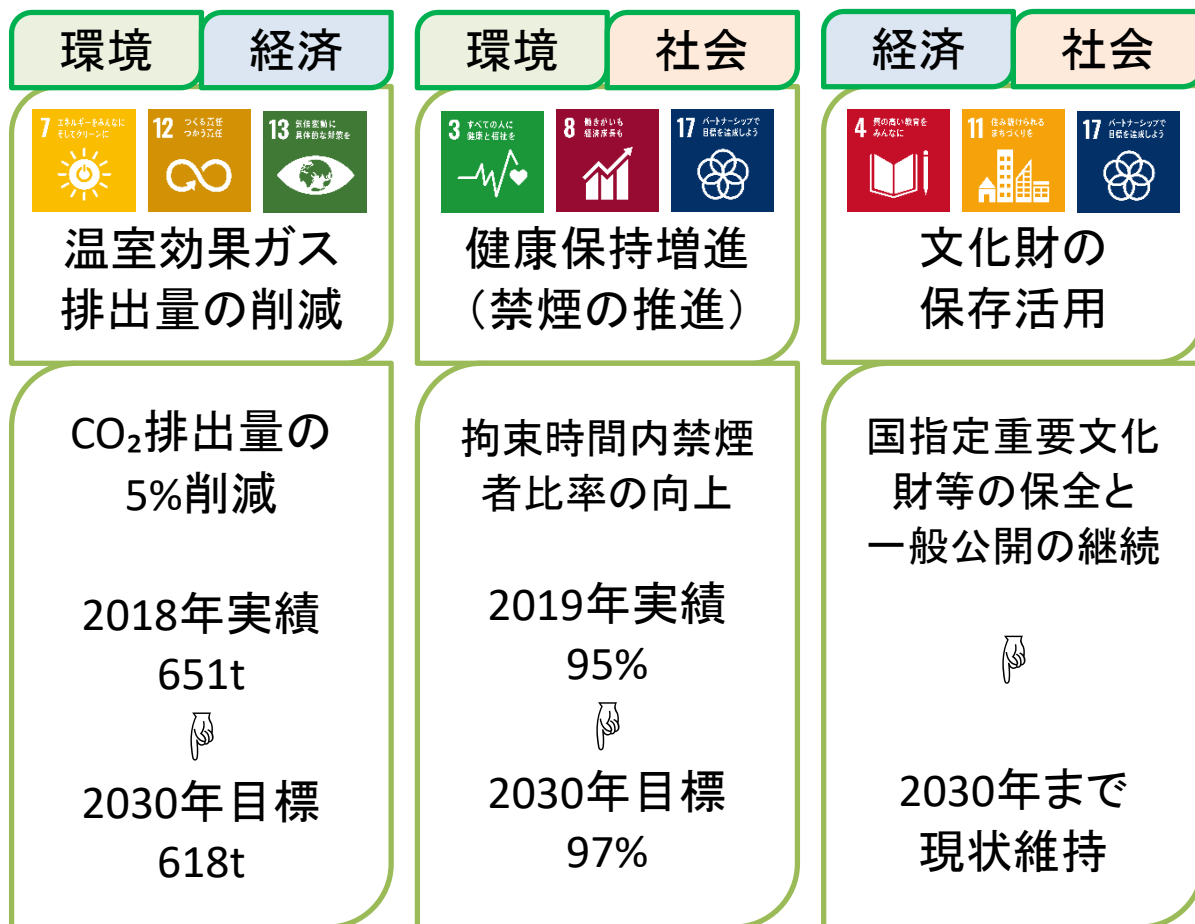
改定日 2026年 01月05日

笠原工業株式会社 代表取締役社長 笠原 章嗣

4. SDGs 達成に向けた取り組み

笠原工業株式会社は、社是『常に信用を重んじ、顧客に満足される製品の供給に総力を結集し、社業の進展と社会の繁栄に寄与する』に基づき、組織体制を整備し、安全性や品質の維持向上に努め、人や環境に配慮し、地域社会へ貢献することで使命を果たしてまいります。

これらは SDGs の目的にも適うものであり、SDGs の目標を達成することにより、持続可能な社会の実現に寄与します。



☆2020年 1月より長野県SDGs推進企業登録制度に登録を宣言致しました。



5. 環境経営目標 及び 6. 活動計画

2025年度は新たな中期環境経営目標の2年目の年となります。

各部門の業務を通しての活動計画を定め、全員参加で活動に取り組み行っております。



* 全社（本社+御牧事業所+甲府営業所） * （2019年 中部電力二酸化炭素調整後排出係数0.426kg-CO₂/kWhを使用）

パフォーマンス評価項目の例			基準年 (2019年)	目標			
環境負荷削減				2024年	2025年	2026年	
CO2 削減	二酸化炭素 排出量		kg-CO ₂	592,815	486,024	495,108	485,829
	対販売CO2指標		kg-CO ₂ /販売量 (万円)	2.4	1.61	1.54	1.42
省エネ	内訳	電気量	kg-CO ₂	444,092	371,050	378,471	370,902
			kwh	982,504	871,010	888,430	870,662
		灯油	kg-CO ₂	13,367	13,089	13,351	13,084
			ℓ	5,364	5,257	5,362	5,255
		ガソリン	kg-CO ₂	37,182	21,836	22,273	21,828
			ℓ	16,015	9,412	9,600	9,408
		軽油	kg-CO ₂	98,174	80,048	81,649	80,016
			ℓ	37,409	31,026	31,647	31,014
省資源	廃棄物	一般廃棄物 削減	kg	8,538	6,420	6,522	6,417
		産業廃棄物 削減	kg	37,710	36,076	36,797	36,061
	使用水量	水道水 使用量削減	m ³	9,396	7,959	8,115	7,955
生物 多様化	化学物質 (精密加工 部のみ使 用)	イソプロピル アルコール	kg	4,960	3,520	3,520	3,520
		酸化 アルミニウム	kg	6,240	3,220	3,220	3,220
		水酸化 ナトリウム	kg	0	770	770	770
		エポキシ 樹脂系	kg	12	10	10	10

部門	2026年度目標	2026年度活動実施計画
共通 (全社) <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">    </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・電気使用量 ・灯油 ・ガソリン（社有車） ・軽油（社有車） ・廃棄物 ・上水使用料 	<ul style="list-style-type: none"> ☆省エネ、省資源活動継続する。 ・原単位（CO2排気量/売上高）を目標設定する。 ・各化石燃料は監視項目とし、大幅増減の項目は原因追求し、対策をとる。
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <p>管理部門 (本社)</p>     </div>	<ol style="list-style-type: none"> 1.事務消耗品の節約 グリーン購入 2.社有車燃費維持向上 3.太陽光発電管理 4.環境美化 5.健康管理 再検査率 100% C判定該当率 30%以下 	<ul style="list-style-type: none"> ☆事務用品のグリーン購入 ☆燃費向上を意識した社有車の運転 ☆本社別館の太陽光発電（自家消費）の維持及び管理 ☆年2回の清掃活動継続（5月・10月） ・全員参加の工場敷地内外、近隣の清掃活動の実施 ☆健康診断でC判定（要再検）以上の社員の再検査率の向上 ☆健康診断でC判定（要再検）以上の社員の該当率の低減 ・社内報による、健康に関する情報の発信及び禁煙の啓蒙
本 社 <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <p>合成部 (本社)</p>   </div>	<ol style="list-style-type: none"> 1.年間を通じての在庫管理 2.クレーム件数の低減 	<ul style="list-style-type: none"> ☆年間を通じ在庫管理を行う。 ☆客先によるクレーム件数の把握（目標：20件/年間） ☆クレームに関わる仕損金額 ☆仕入仕損件数（5件以内/年間）
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <p>AB部 (本社)</p>   </div>	<ol style="list-style-type: none"> 1.本年度生産資材の売上内で環境対応型資材率の実績を7.0%にする。 2.エコ資材販売 前年度実績+2% 3.在庫不足による機会損失を防ぐ為の在庫管理 四半期毎の目標在庫 	<ul style="list-style-type: none"> ☆取扱環境対応型資材を常時20点とし活動を行う。 ☆展示会等を通じ、有効な環境対応型資材を見つけ出す。 ☆環境対応型資材の提案をJAや生産者へ行う。 ☆四半期毎にプラグポット在庫を確認し機会損失を防ぐ。（6品目の在庫管理を徹底）

部門	2026年度目標	2026年度活動実施計画
<p style="text-align: center;">本 社</p> <p style="text-align: center;">精密加工部 (本社)</p> 	<ol style="list-style-type: none"> 1.ワイヤーソー断線率の低減 1.0%以下 2.再研磨率低減 8.0%以下 3.再洗浄率低減 8.0%以下 4.仕損金の把握 5.在庫について 6.電気使用量（金額） 7.水道メーター 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 運転前作業の確認の徹底 ☆ 加工中の機械動作状況確認 ☆ キズ発生検証・項目毎の対策 (研磨材・機械・加工条件・人) ☆ 機械 人 方法の改善 ☆ 客先不良及び工程内不良の仕損金把握 ☆ 材料費（材料+補材）の在庫金額が売上の45%以下 ☆ 生産金額の8.5%以下 ☆ 毎日使用量確認。異常時の原因究明及び対策
<p style="text-align: center;">電 子</p> <p style="text-align: center;">電子部 (御牧・甲府 営業所)</p> 	<ol style="list-style-type: none"> 1.継続監視データ管理 2.不良品・仕損品の減少 (不良品・仕損率) * 顧客出荷品質 ケーブル関係 御牧事業所 90ppm 甲府営業所 90ppm 組立関係 御牧事業所 13件以下 甲府営業所 5件以下 3.仕損金額の減少 4.在庫圧縮管理 製品・・・生産高の40% 材料・・・生産高の100% (材料比率は製品の50%) 5.変更管理の対応 6.環境教育 7.環境美化 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 電力・水道・廃棄物・社用車燃費 ☆ 定期パトロール及び教育による技能の向上 ・ 障害品の原因分析強化と全ての加工先への周知徹底 ・ 合同品質会議及び部内品質会議の開催 ・ 検査員の多能工化及び検査用具改善による出荷品質の向上 ・ 設計ミスによる廃棄部材の低減 ☆ 集計及び監視 ☆ 月の生産高に対する適正在庫及び当月と翌月の受注に対する適正在庫管理 ・ 毎月1回の変更管理会議 ・ 新規採用社員や協力会社への環境教育 ・ 避難訓練・・・9月 防災の日 ・ 工場内外の一斉清掃と除草（年2回）

(2026年度 年間計画)

	実施日	実施項目	担当・出席者
1 月度	1月26日 1月28日	・環境への負荷の自己チェック 2024年度まとめ ・第1回環境会議開催 (2025年度4/4期進捗 2026年度活動計画) ・更新審査申込書提出	事務局 事務局 各部門長・環境責任者
2 月度	2月下旬	・環境レポート作成 中央事務局への送付 ホームページ開示	事務局
3 月度			
4 月度	4月上旬 4月上旬	・環境活動計画1/4期まとめ ・更新審査 (本社 御牧 甲府)	各部門 各部門長・環境責任者 事務局
5 月度	5月上旬 5月下旬	・第2回環境会議開催 (1/4期進捗 更新審査報告) ・環境美化活動の実施	各部門長・環境責任者 事務局 管理部 各部門
6 月度			事務局
7 月度	7月上旬 7月中旬	・環境活動計画2/4期まとめ ・第3回環境会議開催 (2/4期について)	各部門 各部門長・環境責任者 事務局
8 月度			
9 月度	9月上旬	・環境教育 (緊急事態訓練 火災)	各部門
10 月度	10月上旬 10月中旬 10月下旬	・環境活動計画3/4期まとめ ・第4回環境会議開催 (内部監査について・3/4期について) ・環境美化活動の実施	各部門 各部門長・環境責任者 事務局 各部門
11 月度	11月上旬 11月中旬 11月下旬	・環境教育 (本社 御牧 甲府) ・内部監査の実施 ・マネジメントレビュー会議開催	内部監査委員 環境責任者・事務局 経営者・各部門長 環境責任者・事務局

7. 環境経営活動計画の取り組み結果とその評価並びに次年度への取り組み内容



7-1. 環境への負荷の状況（取りまとめ表）

* 全社（本社+御牧事業所+甲府営業所） *（2019年 中部電力二酸化炭素調整後排出係数0.426kg-CO₂/kWhを使用）

パフォーマンス評価項目の例 環境負荷削減			基準年 (2019年)	前年目標 (2025年)	前年実績 (2025年)	評価	当年目標 (2026年)	
CO2 削減	二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	592,815	495,108	496,458	×	485,829
	対販売CO ₂ 指標		kg-CO ₂ /販売量 (万円)	2.4	1.54	1.87	×	1.42
省エネ	内訳	電気量	kg-CO ₂	444,092	378,471	391,111	×	370,902
			kwh	982,504	888,430	915,844	×	870,662
		灯油	kg-CO ₂	13,367	13,351	17,453	×	13,084
			ℓ	5,364	5,362	7,009	×	5,255
		ガソリン	kg-CO ₂	37,182	22,273	23,013	×	21,828
			ℓ	16,015	9,600	9,919	×	9,408
		軽油	kg-CO ₂	98,174	81,649	64,881	○	80,016
			ℓ	37,409	31,647	25,148	○	31,014
省資源	廃棄物	一般廃棄物 削減	kg	8,538	6,522	6,304	○	6,417
		産業廃棄物 削減	kg	37,710	36,797	33,023	○	36,061
	使用水量	水道水 使用量削減	m ³	9,396	8,115	6,130	○	7,955
生物 多様化	化学物質 (精密加工部のみ 使用)	イソプロピル アルコール	kg	4,960	3,520	3,200	○	3,520
		酸化 アルミニウム	kg	6,240	3,220	1,340	○	3,220
		水酸化 ナトリウム	kg	0	770	1,480	×	770
		エポキシ 樹脂系	kg	12	10	0	○	10

* 本社（精密加工部+管理部+合成部+AB部）

パフォーマンス評価項目の例 環境負荷削減			基準年 (2019年)	前年目標 (2025年)	前年実績 (2025年)	評価	当年目標 (2026年)	
CO2 削減	二酸化炭素排出量	kg-CO2	474,184	373,610	370,261	○	366,138	
	対販売CO2指標	kg-co2/販売量 (万円)	3.91	3.28	3.93	×	2.92	
省エネ	内訳	電気量	kg-CO2	362,305	284,777	294,216	×	279,082
			kwh	801,560	668,491	690,649	×	655,122
		灯油	kg-CO2	13,367	13,351	17,453	×	13,084
			ℓ	5,364	5,362	7,009	×	5,255
		ガソリン	kg-CO2	21,890	13,975	13,666	○	13,696
			ℓ	9,429	6,024	5,891	○	5,903
軽油	kg-CO2	76,621	61,506	44,925	○	60,276		
	ℓ	29,196	23,840	17,413	○	23,363		
省資源	廃棄物	一般廃棄物 削減	kg	3,660	3,219	3,780	×	3,154
		産業廃棄物 削減	kg	33,110	34,153	29,898	○	33,470
	使用水量	水道水 使用量削減	m ³	8,835	7,569	5,544	○	7,418

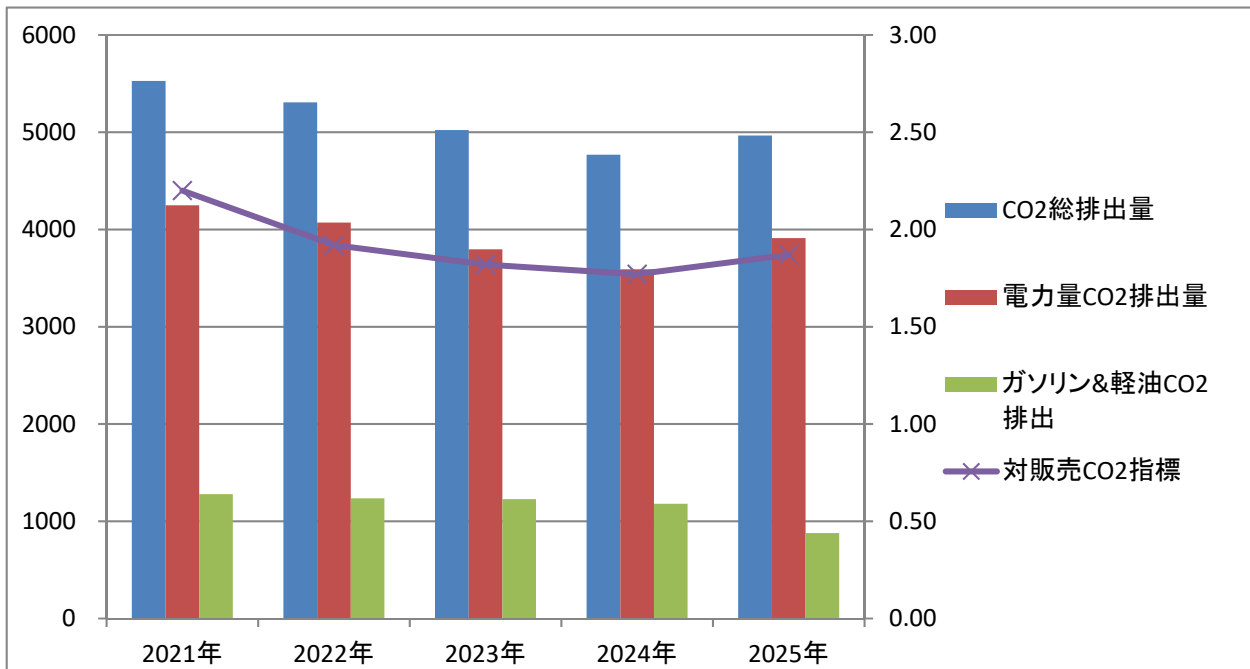
* 御牧事業所

パフォーマンス評価項目の例 環境負荷削減			基準年 (2019年)	前年目標 (2025年)	前年実績 (2025年)	評価	当年目標 (2026年)	
CO2 削減	二酸化炭素排出量	kg-CO2	95,404	90,318	91,016	×	88,511	
	対販売CO2指標	kg-co2/販売量 (万円)	0.78	0.55	0.66	×	0.51	
省エネ	内訳	電気量	kg-CO2	66,541	67,380	68,628	×	66,033
			kwh	147,214	158,170	161,099	×	155,006
		ガソリン	kg-CO2	10,094	4,855	5,080	×	4,758
			ℓ	4,348	2,093	2,190	×	2,051
		軽油	kg-CO2	18,770	18,082	17,308	○	17,720
ℓ	7,152		7,009	6,709	○	6,868		
省資源	廃棄物	一般廃棄物 削減	kg	4,577	2,004	1,000	○	1,964
		産業廃棄物 削減	kg	4,550	2,554	2,737	×	2,503
	使用水量	水道水 使用量削減	m ³	501	389	399	×	382

* 甲府営業所

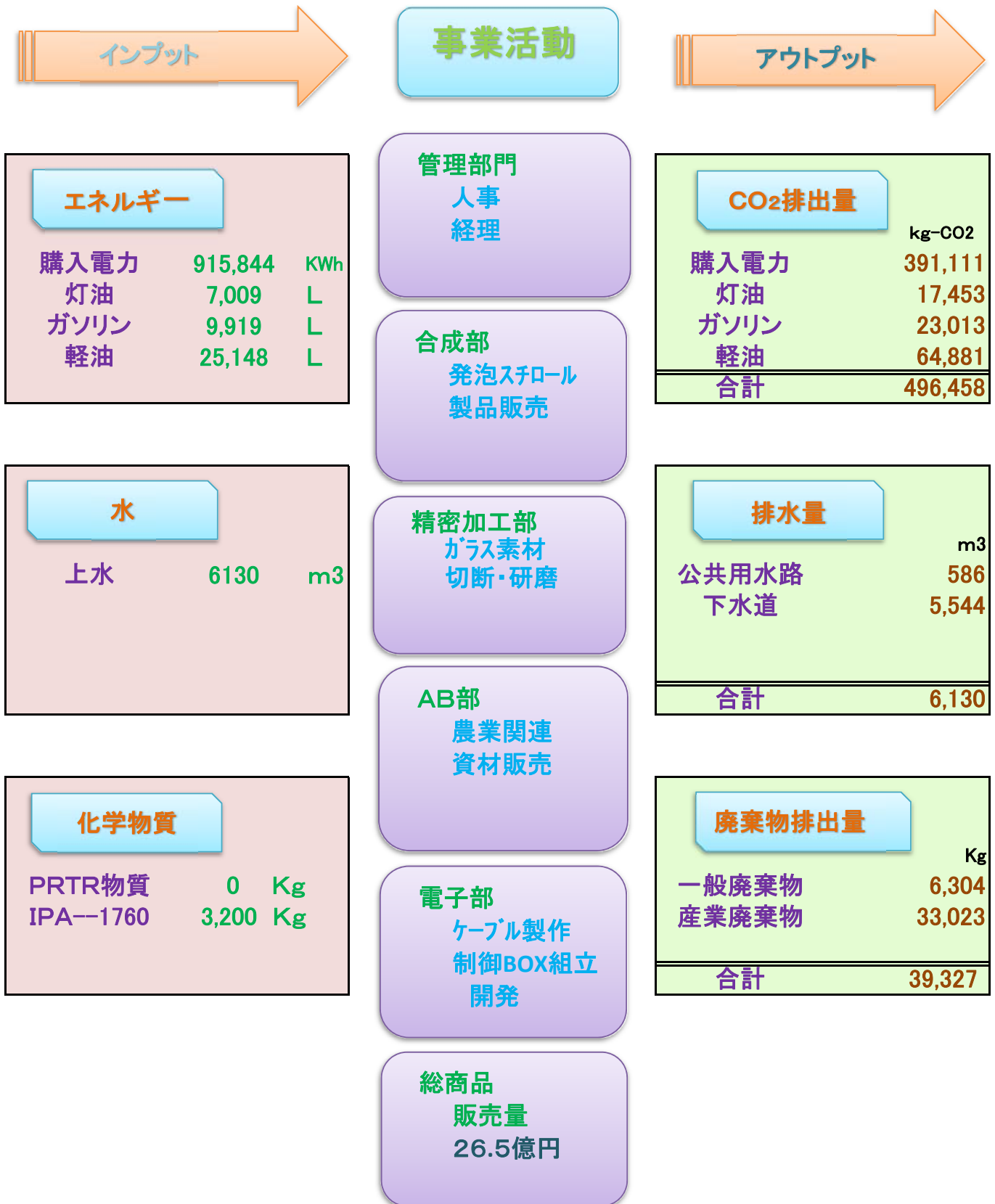
パフォーマンス評価項目の例 環境負荷削減			基準年 (2019年)	前年目標 (2025年)	前年実績 (2025年)	評価	当年目標 (2026年)	
CO2 削減	二酸化炭素排出量	kg-CO2	23,225	31,816	35,181	×	31,180	
	対販売CO2指標	kg-CO2/販売量 (万円)	0.94	0.76	1.04	×	0.73	
省エネ	内訳	電気量	kg-CO2	15,246	26,314	28,266	×	25,787
			kwh	33,730	61,769	64,096	×	60,534
		ガソリン	kg-CO2	5,196	3,442	4,267	×	3,373
			ℓ	2,238	1,484	1,839	×	1,454
		軽油	kg-CO2	2,783	2,060	2,648	×	2,019
			ℓ	1,061	799	1,026	×	783
省資源	廃棄物	一般廃棄物 削減	kg	301	1325	1524	×	1299
		産業廃棄物 削減	kg	50.0	90.0	388.0	×	88.2
	使用水量	水道水 使用量削減	m ³	152.0	158.9	186.5	×	155.8

7-2. 主な負荷項目毎の年度別変化



*排出量は1/100の数字になっております。

笠原工業(株)2025年度マテリアルバランス



7-3. 各部の環境経営目標の実績

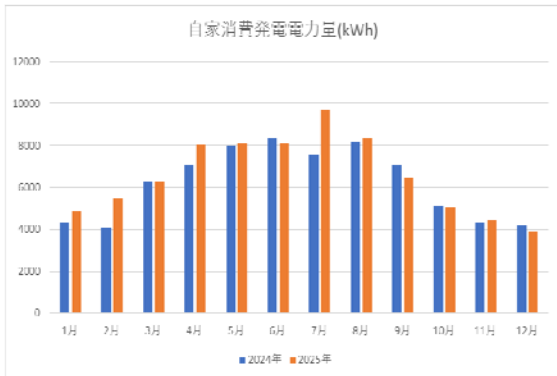
部門	実施項目	目標（2025年）	実績（2025年）	
本社	管理部門 （本社）	1.事務用品グリーン購入	・目標値指定無し	・目標値指定無し
		2.社有車のエコドライブ	・燃費目標の設定	・実績：達成
		3.太陽光発電管理	・太陽光発電（自家消費）の維持及び管理	
		4.環境美化	・年2回の近隣清掃実施	・年2回（5・10月）の実施
		5.健康管理	再検査率の維持向上	・再検査率:達成
	合成部 （本社）	1.効率のよい販売活動の推進	・年間を通じて在庫管理を行う	・通期結果：達成
		2.クレーム件数と仕損金額の把握	・客先クレーム件数	・クレーム件数：未達
			・クレーム仕損金額	・仕損金：達成
	AB部 （本社）	1.本年度売上総額の環境対応型資材向上	・売上金に対する比率目標の設定	・目標設定：達成
			2.エコ資材の販売件数	・販売目標件数の設定
		3.プラグボットの在庫確認。	・6種類のプラグボットについて在庫基準値の設定	・目標基準値：5種類達成 1種類未達
	精密加工部 （本社）	1.ワイヤソー断線率低減	・断線率の設定	・断線率:達成
		2.再研磨率の低減	・再研磨率の設定	・再研磨率:達成
		3.再洗浄率の低減	・再洗浄率の設定	・再洗浄率:達成
		4.仕損金の把握	・客先不良及び工程内客先仕損金の設定	・客先仕損金:達成
			・工程仕損金の設定	・工程仕損金:達成
		5.在庫について	・売上金に対する比率目標の設定	・在庫比率:未達
		6.電気使用量	・生産金に対する比率目標の設定	・使用量:達成
	7.水道メータ確認	・異常時確認	・特に異常はなかった	

部門		実施項目	目標（2025年）	実績（2025年）
電子	電子部 （御牧・甲府）	1.顧客出荷品質	<ul style="list-style-type: none"> ケーブル不良率低減 不良率目標の設定 組立不良率低減 不良率目標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 御牧：達成 甲府：未達 御牧：未達 甲府：達成
		2.仕損金額の監視	・年間仕損金額の把握	
		3.変更管理の対応	・毎月1回の変更管理会議	・計画通りに実施されました
		4.環境教育	・新規採用者、協力工場への教育	・新規採用者への教育実施
		5.環境美化	・構内の清掃 緑化	・年2回（5・10月）の実施
共通 （全社）		二酸化炭素排出量 電力使用量 灯油 ガソリン（社有車） 軽油（社有車） 廃棄物 上水使用量	二酸化炭素排出量の総合評価として原単位を用いる。	目標に対して二酸化炭素の排出量は、前年に比べ95%と減少しており、対販売量も改善している。 ・電力データは2024年に比べ2025年は本社が111%、御牧が104%、全体では109%と増加しております。 ・燃費データはガソリンの消費量は106%と増えておりますが、軽油の消費量については96%と前年並みとなっております。 一般廃棄物については増加しているものの、産業廃棄物は減少している。 増加している部門もありますが、全体としては、前年に比べ減少させることができました。

7-4. 環境経営活動の取り組み結果と評価

§自家消費太陽光パネルの実績

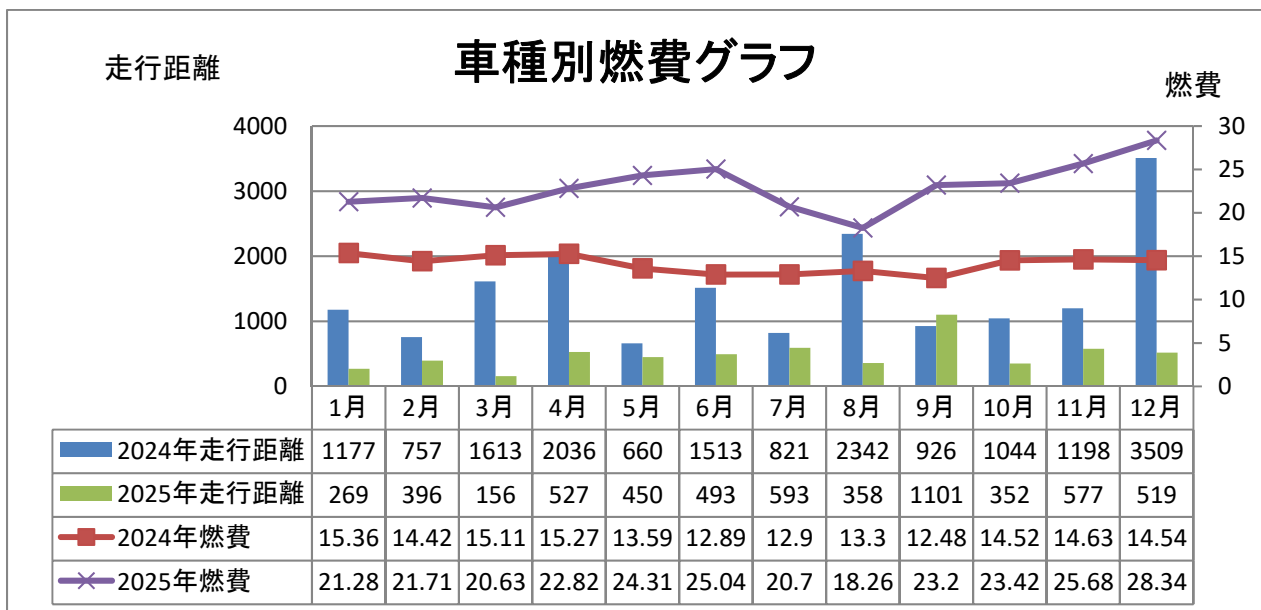
☆自家消費太陽光パネル（66kw）の運用を開始し2年目となります。
天候にも恵まれ78931kWhの発電をし生産活動に寄与致しました。



§社有車の燃費向上に向けて

☆社有車燃費向上についての2025年度は24台中10台の社有車で年通での目標を達成出来ました。しかし、車の年数や季節での空調使用及び1回の走行距離により変動し燃費目標を達成出来ない車もありました。

- ・車種別距離数と燃費グラフにて各車管理をおこなっております。
- ・昨年の実績を踏まえ2025年度の各車の目標値を決定し、目標値と運転ポイントを記載したステッカーを各車に掲示しエコ運転をめざしております。



各車に燃費目標値とエコ運転ポイントを
貼り付け意識の向上行っております。

§環境美化活動

☆ 全社での環境美化の一環として 年 2 回の清掃活動・除草活動の実施を行っております。



* 本社近隣の清掃活動（春）



* 御牧事業所近隣の清掃活動（秋）



* 甲府営業所近隣の清掃活動

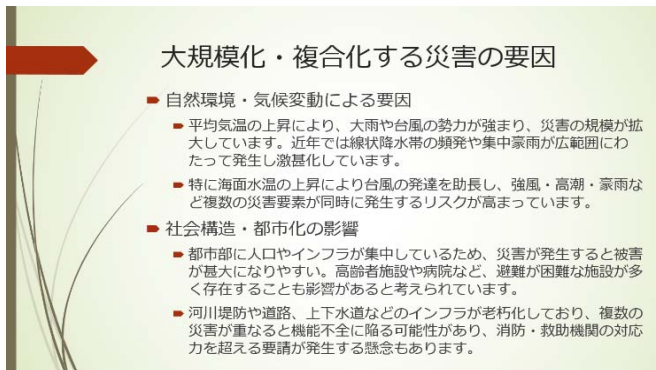
§緊急事態の訓練

☆ 防災の日に合わせて避難訓練の実施を行なうとともに消火器の取り扱い訓練を行いました。
訓練を通じて防災意識の向上と消火器の取り扱いについて学ぶことが出来ました。



§環境教育

☆環境教育の一環として「大規模化する災害と対応」と題して、自然環境の変化がもたらす災害と今後の懸念点について、全社員の情報共有を図りました。



環境教育を行うことにより、より日々の環境に関心を寄せてまいります。

§環境会議

☆2025年度は4回の環境会議を実施し、各部門の活動状況を通じての問題点並びに各種事業の推進について協議してまいりました。

関係各所の協力のもと2025年はCO₂排出量の目標を達成することが出来ませんでした、照明のLED化を推進してまいりました。

御牧事業所A棟及び倉庫群のLED化が終了し、2026年についても引き続き推進致します。



§産業未来フェス in UEDA 2025へ参加

長野県SDGs推進企業としての活動の一環として10月31日から11月1日かけて行われた「産業未来フェス in UEDA 2025」へ参加し、養蚕文化及び施設の紹介しました。

大勢の皆様のご来場ありがとうございました。



8. 環境法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社の企業活動に伴い適用される環境関連法規等は、「環境法規制、その他の要求事項一覧」の通りです。総務課及び事務局が中心となり法規の遵守状況についてチェックを行い、現在及び過去問題のないことを確認いたしました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘、並びに訴訟等は過去5年間ありませんでした。

2025年度環境法規制、その他の要求事項一覧(1)

法律名	対象	法規制内容	対象作業	評価
廃掃法 (廃棄物の処理 及び清掃に関する 法律)	・廃棄物 廃プラ	表示・保管方法	廃棄物保管場所の確認 表示・保管方法の要件	○
	汚泥	産業廃棄物管理票 (電子マニフェスト)	電子マニフェストの発行 (処理の進行確認)	○
	廃油	運搬・処理業者との委 託契約	委託内容の確認	○
	ガラスくず		委託内容とマニフェストの 整合	○
	他 汚泥・廃油・油泥	中間処理・最終処分 の処理状況の確認を 行う	原則、汚泥・廃油・廃油 汚泥の処理事業者の ホームページで状況の 確認を行う	○
グリーン購入法	・原材料又は部品	できる限り環境物品 等を選択するよう 努める	購入品のグリーン適用品の 把握	○
	・環境への負荷低減 に資する製品			
騒音規制法	コンプレッサー	騒音第3種 準工業 地域	特定施設：空気圧縮機 及び送風機（原動機の 定格出力が7.5Kw以上 の物に限る。）	○
		規制値：昼間65db 夜間（21：00～ 6：00） 55db	特定施設（空気圧縮 機、送風機）としての 設置及び変更・廃止の 届け出	○
振動第2種 準工業 地域			○	
規制値：昼間65db 夜間（19：00～ 7：00） 55db			○	
振動規制法				
上田市条例				
水質汚濁防止法	研磨洗浄施設	特定工場	公害防止統括管理者 公害防止管理者 等変更	○
下水道法	変更	変更のある場合 届出する。	特定施設 変更等	○

2025年度環境法規制、その他の要求事項一覧(2)

法律名	対象	法規制内容	対象作業	評価
上田市下水道 条例	排出基準	排出基準 別表1		○
	汚染状態の測定	記録の保管	保管	
PRTR法 (化管法)	シンナー	1000kgを超えて 排出した場合は	使用量の把握	○
	その他	届ける		
毒物及び劇物 取締法 農薬取締法	東北 農薬 上田・東北	販売者の届出 更新 保管 表示 帳票	有効期限の確認 保管場所の確認 保管3年	○
上田広域連合 火災予防条例	・指定可燃物 発泡スチロール	発泡スチロール (20立方)は指定 数量届出	表示確認	○
フロン排出 抑制法	冷凍空調機器	①適正な場所への 設置 ②機器の点検 ③漏洩防止措置、 修理しないままの 充填禁止 ④点検等の履歴の 保存	・全ての製品を対象と した簡易点検の実施	○

(東御市限定)

法律名	対象	法規制内容	対象作業	評価
浄化槽法 東御市浄化槽法 施行細則	浄化槽	浄化槽の保守点検	実施者 東京理工器(株) 点検記録の確認 技術者・管理者変更	○

(その他の要求事項)

その他の要求事項	適用内容	記録・条件	保管場所	評価
環境活動実施	第三者認証取得			○
グリーン調達	化学物質含有量 製品含有禁止物質	提供・基準の厳守 未使用・保証書	各部署	
製品含有化学 物質管理 (RoHS・REACH規制)	管理方法の確立	顧客へのデータ提出		

本社精密加工部 排水より基準 (上田市下水道条例 第23条)

水質管理項目	基準値	評価
水素イオン濃度 (PH)	5~9 (PH)	○
生物化学的酸素要求量 (BOD)	600mg以下/ℓ	○
浮遊物質	600mg以下/ℓ	○
ノルマルヘキサン	5mg以下/ℓ	○

9.代表者による全体評価と見直し・指示の結果

インプット(審議事項)	アウトプット(見直し結果：社長指示)	担当	期限
<p>(1)各部の活動目標達成報告 (各部門責任者)</p> <p>【継続データ】 *全社電力量 昨年同月までの使用量と比較して すでに約92%となっております。</p> <p>*全車ガソリン・軽油消費量 昨年同月までの使用量と比較して ガソリンについては86%、 軽油については84%と なっております。</p> <p>(2) 地域住民などの利害関係から の苦情及び是正処置 2025年度は有りませんでした。</p> <p>(3) 法規制、遵守評価、社会状況 の変化 (5月23日及び10月28日に チェックシートに基づき 確認しました。) 問題ありませんでした。</p> <p>(4) 中間審査是正処置結果 指摘事項無し</p> <p>(5) 内部監査報告 【改善すべき点】 ・管理部門 1件 ・健康管理について 要再検査者の数を減らす取り組み、 もしくは社員の健康維持向上に つながるような取り組みも含めて検討を お願いします。</p>	<p>* 各設備の点検の実施を確実に行う。</p> <p>*「要再検査者の数を減らす取組」 については、要再検査者の数または率を 目標値にすることを検討します。また、 「社員の健康増進につながる取組」に ついては、会社方針に則りながら、 実効性のある施策を検討したい。</p>	<p>各部門</p> <p>各部門</p> <p>各部門</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>各部門 事務局</p>	<p>2026年</p> <p>2026年</p> <p>2026年</p> <p>2026年</p> <p>2026年</p> <p>2026年</p>

インプット(審議事項)	アウトプット(見直し結果：社長指示)	担当	期限
<p>(5) 内部監査報告 【改善すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合成部門 1件 ・「在庫金額」及び「客先クレーム件数」の目標値の再検討。 ・AB部門 1件 ・活動計画の実施項目内容がどの目標に関連しているかを明記あれば現状より見やすい。 ・精密加工部門 1件 ・在庫比率の記載方法を見直し ・電子部門 1件 ・仕損金の算出方法の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> *各分野別販売見込みを考慮し、適正な目標値を設定。 *各仕入先と協議をしながら目標値の設定を行います。 *2026年計画を作成する際に計画に合わせ実施項目を明記するようにいたします。 *売上、在庫共に各月の累計を集計し平均に変更します。 *来年度からは不具合の手直しに伴う費用等は別とし、従来の算出方法に戻して仕損金額を集計・監視していく事と致します。 	各部門 事務局	2026年
<p>(6)環境方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年の環境方針も今年と同じ内容としてよいか。 	変更なしで来年も継続する	経営者	2026年
<p>(7)来期活動スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年のスケジュールも今年とほぼ同じ内容で進めて行きます。 	環境会議については4回予定	事務局	2026年
<p>(8)実施組織の役割及び有資格者の更新等について</p>	*2026年は更新予定者2名	該当者	2026年

以上で令和7年度環境経営活動レポートは終了です。

